

ペット小売業における地球温暖化対策の取り組み

平成21年12月1日
一般社団法人 全国ペット協会

I. ペット小売業の温暖化対策に関する取り組みの概要

(1) 業界の概要

①主な事業

* 愛玩動物もしくはペットおよびペット用品の販売

②業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の参加規模		自主行動計画参加規模(2008年度)	
施設数	21,872施設*	団体会員数	約3500会員***	計画参加施設数	21企業、107施設 (0.489%)
市場規模	売上高1220億円**	団体企業売上規模	-	参加企業売上規模	売上高274億円 (22%)

* 動物愛護管理法に基づく動物取扱業の「販売業」の登録数（平成20年9月現在 環境省調べ）。

なお、「販売業」の対象となる動物は哺乳類、鳥類、爬虫類のみで（観賞魚や昆虫は対象外）、小売業者以外にも、卸売業者等も含まれている。

** 売上高は、ペット（観賞魚や昆虫等も含む動物全体）の生体市場規模（平成19年（株）野生社調べ）

***会員には、ペット小売業者（観賞魚や昆虫等も含む）以外にも、卸売業者やペットの販売を行っていないペットホテルやトリミング等のペットサービス業者、個人会員等も含まれている。

(2) 業界の自主行動計画における目標

①目標

- ・ 2007年10月19日に、「全国ペット小売業協会における環境自主行動計画」を策定。
- ・ 参加企業の店舗における目標年（2010年度）のCO₂排出総量を、基準年（2006年度）比6%削減する。（電気使用量からCO₂排出量を算定する。）
- ・ 目標は、京都議定書の約束期間である2008～2012年度の5年間の平均値として達成する。

②カバー率

- ・ 20%（生体市場規模）。

③上記指標採用の理由とその妥当性

- ・ 京都議定書の約束が温室効果ガス総量削減であることから、目標指標としてCO₂排出総量を採用した。
- ・ ペット小売業の店舗は、中小規模店舗が中心となり、電気のみを使用する店舗が大部分を占めることから、目標数値の対象として電気使用量を対象とする。

(3) 目標を達成するために実施した対策と省エネ効果

取り組み例

既に地球温暖化対策を実施しているペット小売業における取組事例は以下のとおりとなっている。

- ・ 冷暖房の適正な温度設定
- ・ コンプレッサーコントロールシステムの導入
- ・ 遮熱フィルムの導入
- ・ 照明本数の適正化
- ・ 不要な箇所の照明の消灯
- ・ 看板照明の使用時間の短縮
- ・ カーテンを活用した室内の温度管理
- ・ 電力使用量表示モニターを設置し、予定使用量オーバーの際にはアラームで知らせるシステムを導入
- ・ エアコンの室外機などの植物による日よけ
- ・ エアコン送風域の間仕切りによる冷暖房効率の上昇

(4) 今後実施予定の対策

- ・ 下記の取組を実施するとともに、各社にてCO₂削減活動のアイデアを出し、実践する。
- ・ 実践した内容について、理事会で共有し、他社へ、事例として提供する。

取り組み例

- ・ 冷暖房の適正な温度設定
- ・ コンプレッサーコントロールシステムの導入
- ・ 遮熱フィルムの導入
- ・ 照明本数の適正化
- ・ 不要な箇所の照明の消灯
- ・ 看板照明の使用時間の短縮
- ・ カーテンを活用した室内の温度管理
- ・ 電力使用量表示モニターを設置し、予定使用量オーバーの際にはアラームで知らせるシステムを導入

(5) エネルギー消費量・原単位、二酸化炭素排出量・原単位の実績及び見通し

実績値	2006年度	2007年度	2008年度 ^{※1}	2008年度 ^{※2}	2010年度 ^{※3}
					目標
床面積 (①) (千m ²)	40.8	59.3	61	61	-
エネルギー消費量 (電気使用量) (②) (万kwh)	1605.7	1564.8	1759.3	1759.3	-
CO ₂ 排出量 (③) (千t-CO ₂)	6.58 (1.00)	6.42 (0.97)	7.81 (1.19)	6.56 (1.00)	6.19 (0.94)
エネルギー原単位 (②/①) (万kwh / 千m ²)	39.36	26.39	28.84	28.84	-
CO ₂ 排出原単位 (③/①) (千t-CO ₂ / 千m ²)	0.1613	0.1081	0.1280	0.1075	-

※1：CO₂排出量は、電気使用量に、電気事業連合会の2008年度における使用端CO₂排出係数(0.444kg-CO₂/kWh)を乗じて計算した。

※2：電気使用量にクレジット等反映排出係数(0.373kg-CO₂/kWh)を乗じて計算した。

※3：2010年度の目標は、2008～2012年度の5年間の平均値として達成することとする。

II. 目標達成に向けた考え方

<目標に関する事項>

- ・ CO₂排出量の目標を達成するまでには、現時点と比較して2010年までに0.37千t-CO₂の削減が必要とされる。
- ・ 「体調管理のために室温、湿度を常にペットにとつての適温にしなければならない」などのペット産業独特の問題もある。
- ・ 2007年度に比べ2008年度のCO₂排出量は増加した。しかし、これは参加企業系列店舗数の増加による床面積の増加による変動もあり、エネルギー・CO₂排出量原単位は抑制されていることにも留意戴きたい。

<業界団体としての今後の方針>

- ・ 今後は、積極的に取り組んでいる店舗や、節約の効果について実例を挙げて紹介することで活動の浸透と参加店舗の増加に努めていきたい。

III. 民生・運輸部門における取組の拡大 等

<民生・運輸部門への貢献>

- ・ 運輸や民生部門においても、ペット小売業における効果的な取り組み事例を研究しつつ、CO₂排出量の削減を進めたいと考えている。
- ・ 現在のところ下記の取り組みを予定している。

(1) 運輸部門における取組

- ・ 低公害・低燃費車両の導入
- ・ 物流の効率化 (共同配送の利用)
- ・ エコドライブの実践
- ・ バイオ系燃料の使用 など

(2) 民生部門への貢献

- ・ レジ袋や過剰包装の削減

(3) その他の取組

- ・その他として、参加店舗において段ボール箱の削減や廃棄物の分別推進などを進める。

自主行動計画参加企業リスト

一般社団法人全国ペット協会

企業名	業種分類
有限会社アクアテイク-E	その他の小売業 (ペット・ペット用品小売業)
株式会社かねだい	
有限会社キムラ	
九州アメリカンフード株式会社	
株式会社ケイディーシー空港ドッグセンター	
学校法人国際ペットビジネス学院	
株式会社コジマ	
株式会社ジョーカー	
総合ペットの太田	
ペットサロン チャーミー	
ペットショップ パピーランド	
PetBoxワンちゃん	
P. Sかわせ	
株式会社ペットランド	
マイ・犬・シャンプースポット	
株式会社マサヒロ	
有限会社丸和総合ペット	
有限会社ヨネヤマプランテーション	
有限会社ジャパンペットサービス	
ペットプラザ DAN	
(株) 東京ヒロセペット	

* 参加企業のうち、電気使用量などの数値の報告が不可能（店舗形態の変更で、テナント店になったなど）になったため、CO2削減の活動（こまめな電気の消灯など）のみ報告している企業もあることをご了承下さい。